

NEC Express5800シリーズ

Array Recovery Tool
Windows Server 2003 サポートキット

インストレーションガイド

商標について

ESMPROは日本電気株式会社の登録商標です。

EXPRESSBUILDER は日本電気株式会社の商標です。

Microsoft、Windows、は米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Mylex は米国LSI Logic Corporation の登録商標です。

記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

Windows Server 2003はMicrosoft® Windows® Server 2003, Standard EditionおよびMicrosoft® Windows® Server 2003, Enterprise Edition、Microsoft® Windows® Server 2003, Datacenter Editionの略称です。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) NEC の許可なく複製・改変などを行うことはできません。
- (4) 本書は内容について万全を期して作成いたしました。万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。
- (5) 運用した結果の影響については (4)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

cNEC Corporation 2003

目次

1. インストールの前に	4
2. インストール	5
3. インストール(BladeServer編)	7
3.1 コンソールを使用したインストール	7
3.2 ターミナルサービスを使用したインストール	7
3.3 SystemGlobe DeploymentManager Liteを使用したインストール	8
3.4 SystemGlobe DeploymentManager を使用したインストール	10
4. アンインストール	12

1. インストールの前に

ここではArray Recovery Tool (Windows Server 2003 サポートキット版)の動作環境について説明します。

ハードウェア

- 本体 Express5800本体
- メモリ OSの動作に必要なメモリ + 1MB
- ハードディスクの空き容量 1MB以上

ソフトウェア

- Microsoft Windows Server 2003

【重要】

- (1) Array Recovery Toolが動作するためにはGlobal Array Managerのインストールが必要です。
- (2) ESMPROとの通報連携を行う場合には、Windows Server 2003に対応したESMPRO/ServerAgent Ver4.1を使用します。

2. インストール

Array Recovery Tool (Windows Server 2003 サポートキット版)のインストールについて説明します。

以下の手順に従って、Array Recovery Tool のファイルのインストールと環境設定を行います。

【重要】

Windows2000からのUpgradeなどで、Windows Server 2003を使用する場合、システムにインストールされているArray Recovery Toolをアンインストールしてからインストールする必要があります。アンインストールの方法は、「3. アンインストール」を参照してください。

Express5800/400シリーズ(BladeServer)へArray Recovery Toolをインストールする場合は「3. インストール(BladeServer編)」を参照してください。

- 1) ユーザ名「Administrator」でログインする。
- 2) ダウンロードしたartool.exeを実行し、任意のフォルダ(例 c:\temp\art)に解凍する。

解凍後のファイル一覧を以下に記します。

320114	10-10-97	08:45	_INST32I.EX_
8192	08-27-97	08:02	_ISDEL.EXE
11776	09-11-97	14:57	_setup.dll
201893	04-15-03	19:38	_sys1.cab
94426	04-15-03	19:38	_user1.cab
672899	04-15-03	19:38	data1.cab
97	04-15-03	19:38	DATA.TAG
4557	05-31-97	07:31	lang.dat
354	04-15-03	19:38	layout.bin
417	05-07-97	10:15	os.dat
36864	11-24-00	15:22	PSetup.exe
60416	09-11-97	15:00	SETUP.EXE
76	04-15-03	19:38	SETUP.INI
65387	04-10-03	14:48	setup.ins
49	04-15-03	19:38	setup.lid

- 3) 解凍先フォルダ下の「SETUP.EXE」を実行する。

インストーラを起動すると、動作準備状況を [セットアップ] ダイアログボックスで表示し、しばらくすると、[よろこ] ダイアログボックスが表示されます。

- 4) [次へ(N)>] ボタンをクリックする。
[Array Recovery Tool機能概要] ダイアログボックスが表示されます。
- 5) [次へ(N)>] ボタンをクリックする。
[ログファイル作成フォルダの指定] ダイアログボックスが表示されます。
- 6) インストール先フォルダを指定して、[次へ(N)>] ボタンをクリックする。

[ファイル コピーの開始] ダイアログボックスが表示されます。

インストール先フォルダを変更する場合は、[参照(R)...] ボタンをクリックしてフォルダを指定します。

【ヒント】

インストール先フォルダは、容量の問題がない限りデフォルト値の設定で問題ありません。

- 7) [次へ(N)>] ボタンをクリックする。

インストーラがファイルのインストールと環境設定を行った後、[セットアップの完了] ダイアログボックスが表示されます。

8) **[終了]ボタンをクリックする。**

【ヒント】

『はい、ただちにコンピュータを再起動します。』のデフォルト値のまま [終了] ボタンをクリックすることにより、システムが再立ち上げされ、自動的にArray Recovery Toolの監視サービス(Array Recovery Service)が起動されます。

以上で、Array Recovery Tool のインストールは終了です。

3. インストール(BladeServer編)

Array Recovery Tool (Windows Server 2003 サポートキット版)を Express5800/400 シリーズ(BladeServer)へインストールする場合の手順について説明します。

3.1 コンソールを使用したインストール

実装するCPU ブレードに CRT、キーボード、マウスなどが接続されている場合、CPU ブレードのコンソールを使用して Array Recovery Tool をインストールできます。この場合は、「2.インストール」で説明した手順でインストールします。

3.2 ターミナルサービスを使用したインストール

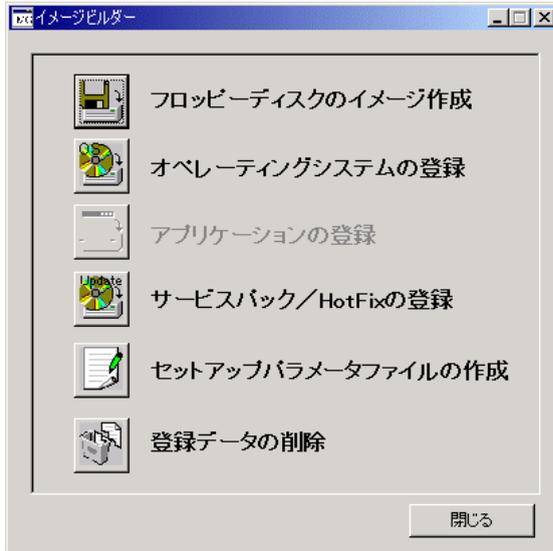
CPU ブレードに CRT、キーボード、マウスなどのデバイスが接続されていない場合などは、ターミナルサービスを使用して Array Recovery Tool をインストールすることができます。
管理サーバのターミナルサービスクライアントを使用して、Array Recovery Tool をインストールします。この場合は、「2.インストール」で説明した手順でインストールします。
(ターミナルサービスクライアントのインストール手順については、本体装置に添付のユーザーズガイドを参照してください。)

3.3 SystemGlobe DeploymentManager Liteを使用したインストール

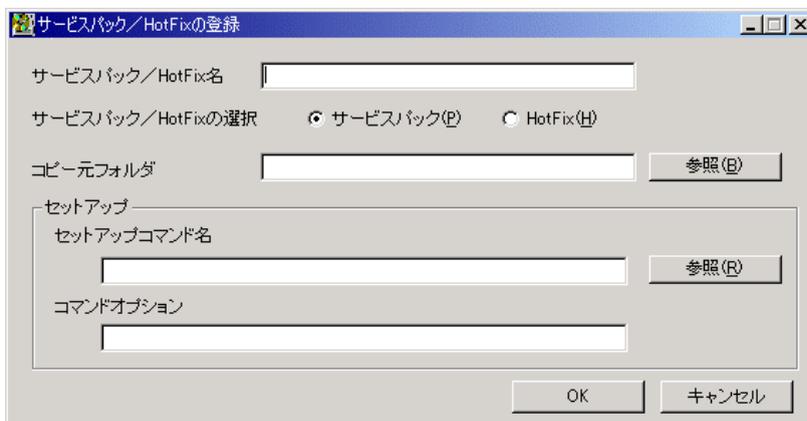
本体装置バンドルソフトウェアの SystemGlobe DeploymentManager Lite のリモートインストール機能を使用して、Array Recovery Tool をインストールできます。ダウンロードした artool.exe をフロッピーディスクや CPU ブレードの任意のフォルダに解凍した後、以下の手順でインストールを行ってください。

1) イメージの作成

1. SystemGlobe DeploymentManager Lite を起動して、メニューより[ツール] [イメージビルダー]を選択します。選択すると「イメージビルダー」が起動されます。



2. イメージビルダーで[サービスパック/HotFixの登録]を選択し、「サービスパック/HotFixの登録」ダイアログボックスを表示します。



3. 以下の項目をダイアログボックスに入力します('FOLDER' には、ダウンロードした 'artool.exe' を解凍したフォルダ名を指定してください)。

サービスパック/HotFix 名 :任意の文字列を指定してください
サービスパック/HotFix の選択 :[HotFix(H)]を選択してください
コピー元フォルダ :[FOLDER]を指定してください
セットアップコマンド名 :[FOLDER]psetup.exe]を指定してください
コマンドオプション :空白のままにしてください

4. [OK]を選択し、イメージをコピーします。

2) シナリオの作成

イメージの作成完了後、シナリオを作成します。

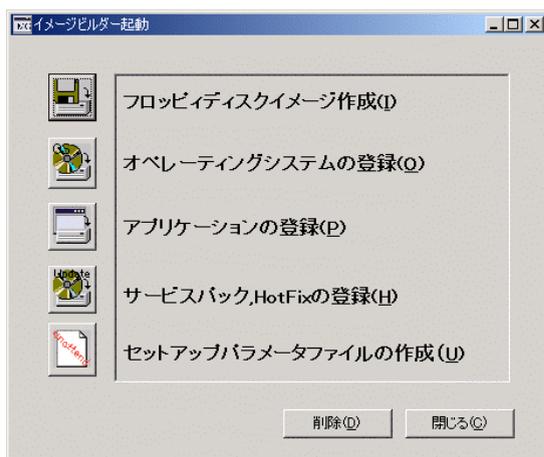
シナリオの作成方法については、SystemGlobe DeploymentManager Lite のマニュアルを参照してください。

3.4 SystemGlobe DeploymentManager を使用したインストール

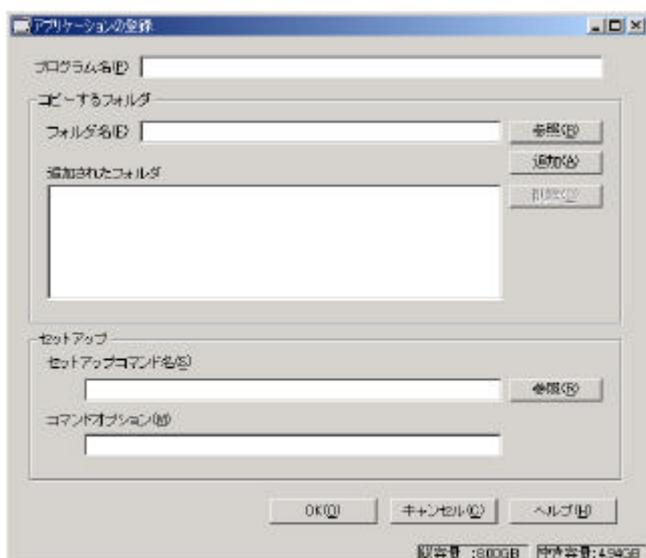
SystemGlobe DeploymentManager を購入している場合、リモートインストール機能を使用して、Array Recovery Tool をインストールできます。ダウンロードした artool.exe をフロッピーディスクや CPU ブレードの任意のフォルダに解凍した後、以下の手順でインストールを行ってください。

1) イメージの作成

1. SystemGlobe DeploymentManager を起動して、メニューより[ツール] [イメージビルダー]を選択します。選択すると「イメージビルダー」が起動されます。



2. イメージビルダーで[アプリケーションの登録(P)] を選択し、「アプリケーションの登録」ダイアログボックスを表示します。



3. 以下の項目をダイアログボックスに入力します(「FOLDER」には、ダウンロードした「artool.exe」を解凍したフォルダ名を指定してください)。

プログラム名(P) :任意の文字列を指定してください
フォルダ名(F) :[FOLDER]を指定し、[追加(A)]を押してください
セットアップコマンド名 :[FOLDER]psetup.exe]を指定してください
コマンドオプション :空白のままにしてください

4. [OK]を選択し、イメージをコピーします。

2) シナリオの作成

イメージの作成完了後、シナリオを作成します。

シナリオの作成方法については、SystemGlobe DeploymentManager のマニュアルを参照してください。

4. アンインストール

Array Recovery Tool (Windows Server 2003 サポートキット版)のアンインストールについて説明します。

次の手順に従って、Array Recovery Tool をアンインストールします。

1) アンインストーラを起動する。

[コントロール パネル]ウィンドウから[プログラムの追加と削除]を選択し、ダブルクリックします。しばらくすると、[プログラムの追加と削除]ウィンドウが表示されます。

[プログラムの追加と削除]ウィンドウから、[Array Recovery Tool]を選択し、[変更と削除]ボタンをクリックします。しばらくすると、アンインストーラが起動されます。

2) [はい(Y)]ボタンをクリックする。

アンインストーラが起動すると[ファイル削除の確認]ダイアログボックスが表示されますので、[はい(Y)]ボタンをクリックします。しばらくすると[コンピュータからプログラムを削除]のダイアログボックスが表示されます。

3) [OK]ボタンをクリックする。

[アンインストールが完了しました。]が表示された後、[OK]ボタンをクリックしてください。

【ヒント】

「'Array Recovery Tool'はシステムから削除されませんでした。マシンを再起動してアンインストール時に使用中だったファイルを削除することをお勧めします。」というメッセージダイアログが開かれる場合がありますが、アンインストールは正常に終了していますので、[OK]ボタンをクリックしてください。アンインストール時に削除されなかったファイルはマシンを再起動したときに削除されます。

以上で、Array Recovery Tool のアンインストールは終了です。